

くすりのしおり

内服剤

2016年06月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

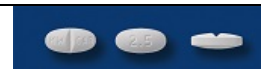
商品名：カルベジロール錠 2.5mg 「アメル」

主成分：カルベジロール (Carvedilol)

剤形：白色～帯黄白色の錠剤、短径約 5.1mm、長径約 10.1mm、厚さ約 3.2mm

シート記載：(表) カルベジロール 2.5mg 「アメル」、カルベジロール「アメル」、KWCAR2.5

(裏) Carvedilol 2.5mg 《AMEL》、KWCAR2.5、カルベジロール「アメル」、2.5mg、リサイクルマーク、GS1 コード



この薬の作用と効果について

β 受容体遮断作用に加えて α_1 受容体遮断作用による血管拡張作用、降圧作用を示し、血管抵抗を維持、減少させて、心臓のポンプ機能を改善し、体に必要な血液を十分に送り、心機能を改善します。

通常、慢性心不全（虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく）、不整脈（頻脈性心房細動）の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。気管支喘息、気管支痙攣、糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシス、不整脈、心原性ショック、非代償性の心不全、肺高血圧による右心不全、未治療の褐色細胞腫、絶食状態、栄養不良、肝機能障害、腎機能障害、末梢循環障害、血圧が低い。
- ・妊娠、妊娠している可能性がある、授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

・あなたの用法・用量は<<

：医療担当者記入>>

- ・虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全：通常、成人は1回半錠（主成分として1.25mg）を1日2回食後の服用から開始します。1回半錠（1.25mg）、1日2回の服用に忍容性がある（何事もなく飲み続けられる）場合には、1週間以上の間隔で忍容性をみながら段階的に増量され、忍容性がない場合は減量されます。用量の増減は必ず段階的に行われ、1回服用量は半錠（1.25mg）、1錠（2.5mg）、2錠（5mg）、または4錠（10mg）のいずれかです。いずれの用量でも1日2回食後に服用します。通常、維持量として1回1～4錠（2.5～10mg）を1日2回食後に服用します。なお、年齢・症状により服用開始用量はさらに低用量になる場合もあります。また、患者の本剤に対する反応性により、維持量は適宜増減されます。頻脈性心房細動：通常、成人は1回2錠（主成分として5mg）を1日1回の服用から開始し、効果が不十分な場合には4錠（10mg）を1日1回、8錠（20mg）を1日1回へ段階的に増量されます。年齢・症状により適宜増減されますが、最大服用量は8錠（20mg）を1日1回までです。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次の通常飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分を飛ばしてください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・服用中（特に、服用初期や増量時）は、めまい、ふらつきがあらわれることがありますので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作などはしないようにしてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、めまい、倦怠感、眠気、頭痛、動悸、徐脈、血圧低下、糖尿病悪化、発疹、喘息様症状、吐き気などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・息切れ、めまい、失神 [高度な徐脈、ショック、完全房室ブロック、心不全、心停止]
- ・顔面蒼白、冷汗、ふらつき [ショック]
- ・全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・全身倦怠感、尿量減少、手足や顔のむくみ [急性腎不全]
- ・呼吸困難、ふらふら感、眼や唇の周りがはれる [アナフィラキシー]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または

薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。